2 月　総領事報告

オンタリオ、トロントでは厳しい寒さが続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。オミクロン株による感染の拡大はようやく峠を越えたとみられ、規制も段階を経て緩和されつつあります。日も長くなってきました。明かりは大きくなりつつあります。

本年の天皇誕生日につきましては、最近の状況に鑑み、有人でのレセプション開催は断念いたしました。2 月 23 日の天皇誕生日当日は、トロント市に依頼して、市庁舎に国旗を掲揚いただく予定です。

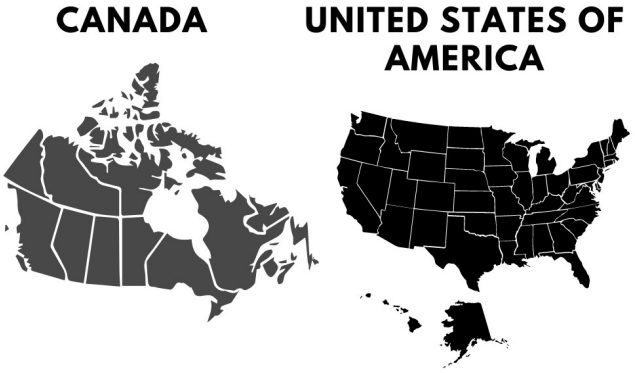
今月は、オンタリオ州の経済状況についてご報告し、日本などから当地に投資やビジネスをお考えの方に、総領事館としての情報を提供したいと思います。

カナダ全体でみれば、昨年は４．５％程度の成長となったようです。（公式発表は 3 月以降。）失業率もコロナ禍以前のレベルに戻りつつあります。オミクロン株の影響で、１月は残念ながら失業が増加してしまいましたが、加えて、全般的な物価の上昇の影響が注目されるところです。コロナ禍の状況を、ある人は「二都物語」と表現しました。レストラン、エンターテインメント、旅行などのホスピタリティといわれる業種が大きな打撃を受ける一方、コロナ禍の中でも幸い、業績を伸ばせている業種もあります。様々なドラマが展開している状況です。

オンタリオ州には、当館の調べで約３５０の日系企業が展開しています。トロント日本商工会の会員企業を含め日系企業の皆様からお話を伺う機会にも幸い恵まれています。昨年、在トロントのドイツ総領事と懇談した時のことですが、カナダの日系企業は、米国に本拠を置く米州統括の会社の配下であることが多いことを説明したところ、怪訝な顔をされました。ドイツ企業でカナダにおいて業績を伸ばしているところは、直接ドイツの本部に報告し、

責任もカナダの会社が負っている、カナダが独自のマーケットである以上、当然の体制ではないか、とのことでした。

カナダで業績を伸ばす秘訣は「カナダ市場の特性を知ること」である、と申し上げますと、当たり前のことと思われるでしょう。しかしこれは、「米国市場とカナダ市場の違いを認識している」、「カナダでは米国と異なる戦略を立てている」ということと同じ意味です。



【挿絵：カナダとアメリカの地図】

カナダで業績を伸ばしておられる日系企業は多くおられます。いずれもカナダのマーケットとしての特性を捉えておられるように思います。スバルは、カナダ市場に特化したテレビコマーシャルを製作しておられますが、ここ数年、販売実績を大きく伸ばしています。農機具のクボタは、カナダで独自のディーラー網を築かれ、新しい販売拠点を近くトロント郊外に移転されます。IT 業界では、Co-Sol が、日本との時差を利用したデータベース 24 時間保守サービスの拠点をトロントに構えておられます。

カナダの企業は、米国と国境を接し、欧州とも結びつきが強いため、カナダ国内で事業を完結させようとしている企業は、稀だと思われます。ビジネスの発想として、「国境」という概念は薄いと思われ、国外展開を前提としていると思います。先月の報告で、日本の農林水産物の輸出促進について取り上げましたが、輸出振興のためには、このような発想が必要でしょう。

【挿絵　カナダと日本が貿易をしているところ】

オンタリオ州市場の特性、今後の展開について、添付のパワーポイントにまとめてみました。トロント、特に「黄金の馬蹄形」といわれる地域の特性は、住民の実に６０％がカナダの国外で生まれた方々であるということでしょう。これは、消費や行動になじみのないものでも容認する、また自分も馴染んでみるという特性を培養することになるでしょう。だからこそトロントには多様な文化が共生しています。人口は、毎年１０万の単位で増加が見込まれています。トロント周辺を回ってみると体感できるのですが、新しい高層マンション、商業施設の建設ラッシュが、コロナにも関わらず続いています。都心にこれだけの開発用地があること自体、北米の大都市では見られない現象でしょう。かつての工業用地などの跡地に再開発事業が進められており、鉄道整備に伴う開発も計画されています。米国市場との違いという点では、米国ほどオンラインでのショッピングのシェアは大きくなく、意外ですが店内ショッピングを好む、という報告もありました。今や世界ブランドの UNIQLO や MUJI（無印良品）も好調です。

パワーポイントへのリンク:
https://www.toronto.ca.emb-japan.go.jp/files/100302909.pdf

もちろんカナダ市場はすべてバラ色というわけではなく、特有の規制や、連邦制に伴う州際間の連携の悪さなどの問題も抱えます。カナダ自身、アジア重視、経済の多様化を掲げ、CPTPP のメンバーですが、インド太平洋地域との連携はいまだ十分とは言い難いでしょう。カナダ市場を、北米市場と一括りにすることなく独自の経済圏となっていることを認識し、活用することが重要ではないでしょうか。（了）